



～新年にあたって～

明けましておめでとうございます。日頃より亜熱帯農業センターと営農研修所の業務運営にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。新年を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。

昨年4月に、久しぶりに新しい農業者の仲間を迎えました。東京農業アカデミー八王子研修農場で研鑽を積まれ、現在は東京都指導農業士のもと、研修を受けています。これからは小笠原農業の担い手の一員として活躍されることと期待しております。また、母島の蝙蝠谷農業団地の農地整備が一区切りを迎えました。さらなる営農の場としてご活用いただけると幸いです。

一方、ロシアによるウクライナ侵略等による肥料、燃油等の農業資材の国際価格高騰や、円安の進行もあいまって、農業経営に大きな影響を及ぼしています。また、自然災害や気候変動のリスクが増しており、小笠原においては春から初夏にかけて記録的な少雨となり、父島と母島で一時期節水が呼びかけられました。このような状況の中、生産者の皆様

におかれましては、対応に苦慮されたことと思います。

亜熱帯農業センター・営農研修所では、変化する生産環境に対応すべく、試験研究成果の還元や現場に寄り添った普及指導に努めてまいります。

当センターは今年度の試験研究により、おがさわら丸ドック期間を除けたパッションフルーツの作型の着果制限の効果、菊池レモンの施設栽培における被覆資材の除去効果、アフリカマイマイ生息密度調査、外来樹チップ堆肥の栽培評価、ミニトマトの裂果に対する灌水量の影響などを明らかにしました。これらの研究成果は、来月開催の成果報告会にて報告させていただく予定です。

今年の干支「巳年」は、ヘビが脱皮する姿から「新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年」と言われています。農業センター、営農研修所におきましても、新たな挑戦を続け、小笠原の農業振興に取り組んでまいりますのでよろしくお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

＜小笠原支庁長：大場＞

試験成果報告会のお知らせ

下記の通り令和6年度の試験成果報告会を開催いたします。

○父島 2月19日(水) 15:30～17:00 【場所：亜熱帯農業センター本館】

○母島 2月20日(木) 16:30～18:00 【場所：農協母島支店2階会議室】

詳細につきましては、村民だより等でお知らせいたします。

生産者および関係機関を対象に開催します。奮ってご参加ください。

～平棚パッションの2本主枝仕立て～

小笠原では、パッションフルーツを平棚で主枝4本を十字に仕立てて栽培するのが一般的ですが、十字にすることで着果枝等が交差することになり、誘引等の作業が煩雑になっています。そこで、主枝2本を一文字に仕立て着果枝が交差しないように栽培することで、省力化するか、収量や品質に影響無いかを調査しました。

2本にすると、1日あたりの開花数が少なく推移した他、その日にぶら下がっている

果数である樹上着果数は主枝4本に比べ少なくなりました。同時の着果負担が少なくなるため、主枝2本では総果数に差が無い一方で、一果重が重くなりました(図1)。作業時間は主枝2本の方が短くなり、作業効率が良くなりました。栽培目的に合わせて、主枝数を選択すると良いでしょう。

普及指導担当では、農セと協力して、引き続き省力化技術を開発していきます。

＜普及指導担当：北山＞

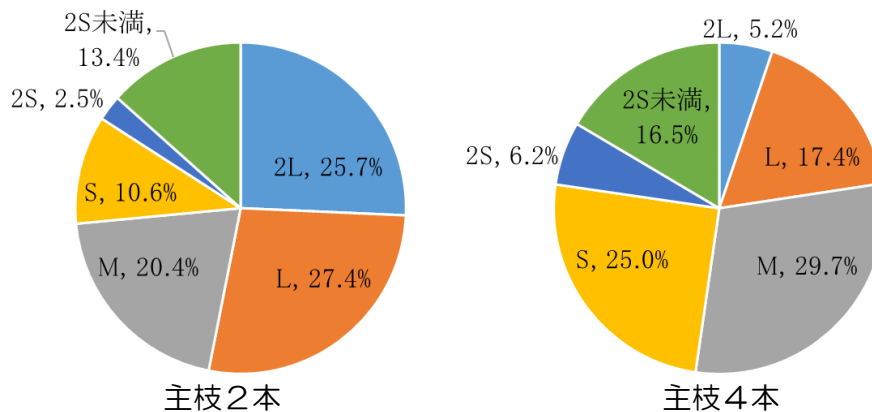


図1 果実重の割合

～ 土壌診断の傾向と対策(2024②) ～

今年度2回目の土壌診断を実施しました。診断数は、母島19戸93件、父島3戸19件でした。個別の改良対策は農協からお知らせしましたが、今回は目立ちました加里過剰についてお知らせします。加里が過剰だと、拮抗する石灰や苦土を植物が吸収しにくくなり、石灰欠乏や苦土欠乏が発生することがありますので、管理を修正しましょう。

●加里過剰

加里の入った肥料(888や14-14-14、硫酸加里)等を施用している場合は、チッソやリン酸単肥等に置き換えて、不要な加里を投入しないようにしましょう。不安な場合は一部の置換え等、「減らす」のも良いでしょう。

有機質資材を使用している場合も加里過剰になりやすくなります。草木灰や米ぬか、鶏ふん、堆肥等に加里は相当量含まれます。化学肥料と異なって成分の計算が難しくなりますが、土壌診断結果を元に、これら資材を削減して他の資材に置き換える等をしてしましょう。石灰-苦土-加里のバランスを一度崩すと修正にかなりの年月を要します。特に有機質資材メインで営農されている場合は、バランスを崩しすぎると、修正しきれなくなります。土壌診断を受けて、初期に把握するよう努めましょう。

●第3回は12月に実施しています。

＜普及指導担当：北山＞

～パッションフルーツの年2回収穫作型について～

小笠原におけるパッションフルーツの収穫・および出荷の最盛期は5～6月ですが、この時期は果実を内地へ輸送する「おがさわら丸」のドック（運休）期間となっており、果実の安定出荷が困難であることから、ドック期間の収穫を避けた新たな作型が求められています。今回は令和5年度に実施した「おがさわら丸のドック期間を除けた年2回収穫作型」について紹介します。

1. 方法

2022年8月30日に当センター内のパイプハウスでパッションフルーツ「台農1号」を栽植しました。主枝4本平棚仕立て（8㎡/樹）による電照栽培を行いました。試験区は、年1回収穫する区（年1回区）と1回目の収穫終了後に結果枝を切り戻し、2回目の収穫を行う区（年2回区）を設け、樹体生育、果実品質および作業時間を調査しました。

2. 結果

1回目の開花期間はハウス内の棚下気温が低く推移しました。このため、切り戻し予定日になっても収穫が終わらず、樹上に果実を残した状態で切り戻しを行うことになりました。

果実品質は年2回区の1回目の果実が2回目の果実よりも糖度が低く、酸度が高く、糖酸比は低くなりました。果実生育期間中の棚下気温が1回目の収穫期間中よりも低く推移したことが原因だと考えられました（表1）。

作業時間は年2回区が年1回区に比べ大きくなりました。月別でみると、授粉期間中の12月および翌年の4月にその他の月と比べて特に大きくなる傾向を示しました。

以上の結果より、8月末ごろに定植して、電照栽培で年2回収穫を行った場合、3月中旬に1回目の収穫を終了し、切り戻しを行えば、2回目の収穫がおがさわら丸のドック期間に重なることなく終わることができると考えられました。一方で、年2回収穫では収穫期が増えることにより、作業時間が増えることや、1回目の収穫果は果実品質が劣ることが課題として考えられ、着果制限などの栽培技術により、省力化や果実品質の改善を検討する必要があると考えられました。

＜パッションフルーツ担当：村田＞

表1 収穫当日の果実品質^x

	果実重 g	縦径 cm	横径 cm	糖度 Brix%/果	酸度 wt%/果	着色指数 ^y
年1回区	83.35 a	67.54 b	59.55 a	18.71 b	3.36 a	3.39 a
年2回区・1回目	85.14 a	67.24 b	60.05 a	18.76 b	3.40 a	3.34 a
年2回区・2回目	85.53 a	72.21 a	62.29 a	19.46 a	2.28 b	3.42 a

x) 異なるアルファベット間にはTukey-kramer法において5%水準で有意差あり

y) 0:果実表面の20%未満(青落ち), 1:20%以上50%未満, 2:50%以上100%未満, 3:100%で濃赤色, 4:100%で暗紅色, 5:100%で暗灰紫色

～ 第二回小笠原島レモン品評会審査講評 ～

記念すべき第一回となった令和5年度に引き続き、令和6年9月17日に第二回となる島レモン品評会が開催されました。昨年度と異なり、母島が会場となりました。幸い天気も良く、父島の審査員には快適な、ははじ丸での海路となりました。

今年は渇水に悩まされた年でした。3～5月の合計降水量が平年の5分の1程度で、春から水不足が続きました。レモン栽培においては、気温が高く推移したためか、熟期がやや早まり、小ぶりの果実も多くなりました。かいよう病の被害こそ大きくありませんでしたが、果皮をケロイド状に変色させるリュウキュウミカンサビダニなど、微小害虫の発生が散見されました。ダムの水位が日に日に下がる中、生産者の皆様におかれましては大変なご苦労があったかと思えます。

品評会に出品された島レモンは計7点で、いずれも母島からの出品でした。主に果実の形状や色沢、熟度等を評価し、果実断面も審査しました。

金賞には、色沢、形状の揃いが特に優れた出品物が選ばれました。適切な熟期で収穫されており、張りがあって美味しそうな、見事な島レモンでした。全体として病害虫の被害は少なく、農業者の皆さまの管理技術の高さを感じられました。一方、形状や大きさが揃っていないために、上位に入賞できなかった出品物もありました。規定の出品数である

10果の形状・大きさ・着色程度がすべてよく揃っていると、商品価値も高まります。多くの高品質な果実を生産し、選果する中で出品いただければ、品評会での上位入賞が狙えるばかりでなく、より良い商品の出荷、ひいては島レモンブランド全体としての魅力発信にもつながります。

農業センター、営農研修所では、島レモンのさらなる生産量増加・高品質化に向けて、支援を続けてまいります。生産者の皆さまにおかれましては、今後も品評会を通じて、技術向上に努めていただければ幸いです。

＜カンキツ類担当：宮地＞



写真 金賞を受賞した出品物

金	賞	母	島	松	本	農	園
銀	賞	母	島	田	澤	農	園
銅	賞	母	島	福	田	農	園